

医学教育分野別評価 旭川医科大学医学部医学科 年次報告書

2022（令和4）年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.3

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.34

はじめに

2021年度は前年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の蔓延により、講義・実習は大きな影響を受けたが、前年度の経験を生かし、学修支援システムおよびWeb会議システムZoom（以下「Zoom」という。）を使用したオンライン講義やオンライン臨床実習プログラムを取り入れつつ、半数の学生を登校させるなど、なるべく大学に登校させて教育活動を受けることができるよう工夫した。2022年度以降も、できる限り全員登校で授業が構築できるよう授業や学校生活（部活動や食堂の利用など）を工夫して行っていく。このような状況により、2021年度に実施予定であった新カリキュラムの開始を延期したが、これを2022年4月から開始する。本学全体の教育・研究体制の改善については、学長、教育担当副学長、教育センター長さらに医学科長、看護学科長を新たに配置し、教学のリーダーシップの責務を明確にすることで教育やカリキュラムの改善に向けてより速やかに対応できる体制を構築しつつある。本年次報告書においては、教育改善のための本学の現在の取り組みを報告する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2021年4月1日～2022年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2.34の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

本学の点検評価室の下に設置した分野別評価専門部会において、開学50周年となる2023年度からの改訂に向けて継続的な改善を議論していく予定である。使命と学修成果の策定に当たり、建学の理念を念頭に、職員、学生代表、地域住民代表、地域医療機関ならびに関連省庁を含めた広い範囲の教育関係者から意見を聴取するよう努めていきたい。また、学生の適切な行動について盛り込んだ学則や行動規範の改正についても検討を進めていく。

1.1 使命

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学則第1条（1973年）、教育の理念（2005年）、教育の目標（2005年）、ミッションの再定義（2013年）、第3期中期計画（2016年）に大学の使命を見直している。

改善のための助言

- ・ 学則第1条（1973年）、教育の理念（2005年）、教育の目標（2005年）、ミッションの再定義（2013年）、第3期中期計画（2016年）の使命の見直しの経過を明

示し、この使命の見直しが、社会からの保健・健康維持に対する要請、医療制度からの要請、および社会的責任とどのような関連があったのかを説明すべきである。

- ・ 使命では、卒前教育が卒後の教育への準備であることを学生が理解できるように記載すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

使命と学修成果の改善にあたっては、学外者を含めたステークホルダーの意見について検討していく必要があり、今後その機会を設けていくこととしている。

2022年4月1日に新学長就任、新執行部体制へ移行することとなるが、本学の教育体制についても整理、見直していくことが必要であることも認識しており、分野別評価専門部会で検討を始めている。（資料1）

改善状況を示す根拠資料

資料1 令和3年度第3回分野別評価専門部会（医学科）議事要旨抜粋

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

1.3 学修成果

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよび「医学科2015カリキュラムにおけるコンピテンシー」がともに5つの柱から構成され、この3つの方針の間の整合性が図られている。

改善のための助言

- ・ 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを学則・行動規範に記載すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1.1の基本的水準と同様の状況

改善状況を示す根拠資料

同上

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 国際保健に関して目指す学修成果をディプロマ・ポリシーや「医学科2015カリキュラムにおけるコンピテンシー」に記載することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 1.1の基本的水準と同様の状況

改善状況を示す根拠資料

同上

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命の見直しや学修成果の策定には、職員、学生代表、管理運営者ならびに関連省庁を含めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 1.1の基本的水準と同様の状況

改善状況を示す根拠資料

同上

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域に密着し、地域の医療課題を解決するという開学時の使命とその使命を果たすための学修成果の策定には、広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 1.1の基本的水準と同様の状況

改善状況を示す根拠資料

同上

2. 教育プログラム

新型コロナウイルス感染症の感染防止を第一に考え、本学のBCPレベルに応じてLMS、Zoom、対面授業を併用し、現行カリキュラムをできる限り実施した。

2.1 プログラムの構成

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 定期的カリキュラムを見直し、「医学科2009カリキュラム」、「医学科2015カリキュラム」を導入し、改善を継続していることは評価できる。
- ・ 「医学チュートリアル（I～V）」を低学年から継続的に実施していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2020年度のオンライン主体授業のアンケート結果を踏まえ、2021年度はe-learningではなく原則Zoomによる双方向性の授業形態とし、感染状況が落ち着いていた期間においては、半数登校（対面）とZoomの併用で授業を実施した。新カリキュラムは、2022年度開始を目指しカリキュラム検討ワーキンググループでの検討を重ね（資料2）、カリキュラム案を策定、パブリックコメントを募集し（資料3）、さらなる検討を経て原案を修正した後、2021年10月25日の教育センター会議で最終案が承認された（資料4）。最終案は教育研究評議会にて審議され（資料5）、教授会報告を経て、2022年4月1日開始の運びとなった。過密カリキュラムの是正、低学年から段階的に患者と接する機会を与える、多職種協働の学修機会の確保等が主たる変更のポイントである。

改善状況を示す根拠資料

- 資料2 2021年度カリキュラム検討WG議事要旨
- 資料3 医学科2022カリキュラム（案）に対するご意見
- 資料4 令和3年度第5回教育センター会議議事要旨抜粋
- 資料5 令和4年第3回旭川医科大学教育研究評議会議事要旨（議題9）

質的向上のための水準： 適合 ・ ・ ・ 指摘事項等無し

2.2 科学的方法

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 臨床実習において、EBMに基づく医療の実践を教育すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床実習におけるEBMの教育実践状況のアンケート調査により、過半数以上の担当科でEBMに基づく医療の実践教育が行われていることが確認できた（資料6）。またシラバス

にそれらが全て明示されるように、学内に要請を行った（資料7）。これらを受けて、次年度はもう一度、EBM教育に関する記載がシラバス上にあるか、またEBM教育の実践方法に関する調査を行い、さらなる改善を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料6 EBMに関するアンケート調査結果（講座別）

資料7 2022年度アドバンス臨床実習指針作成の注意事項等

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

2.3 基礎医学

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022年から開始される新カリキュラムでは、1年生で「症候学」という新しい実習科目を開講することとした。一般目標は「腹痛と胸痛を来す疾患について、医療面接における鑑別ポイント及び医療面接のスキルを実践学習し、基礎・臨床医学の学習エッセンスを確認する」、行動目標は「基礎医学が臨床医学とどのようにつながっているのかを理解できる」とし、早期に基礎医学で臨床医学を習得・応用するのに必要な能力について学習するようにした（資料8）。来年度は本新設科目を実施し、授業のアンケート調査により学生の習熟度を調査して、さらなる授業改善に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料8 2022年度医学科シラバス（症候学）

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 低学年から行われている行動科学教育の繋がりを学生が理解し、その学修内容を臨床実習に活かすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

旭川医科大学臨床実習に関する協議で、各施設で行動科学教育の実践が可能かどうか調査を行った（資料9）。およそ4割の施設で何らかの教育が可能であるとの調査結果を得られたが（資料10）、全ての実習学生に関連施設でその教育を受けさせるまでのリ

ソースは準備できなかった。今後は行動科学教育を補完する実習現場を学内でも確保できないか検討を進め、新カリキュラムでは完全に実施できるよう準備する。

改善状況を示す根拠資料

資料9 旭川医科大学臨床実習に関する協議

資料10 令和3年度関連教育病院等アンケート回答一覧

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

2.5 臨床医学と技能

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 重要な診療科において、同じ医療チームで4週間以上の診療参加型臨床実習を組み、臨床現場でスタッフや患者、家族から学生が学べる環境を整えるべきである。
- ・ BSL、診療参加型臨床実習、「アドバンス臨床実習」と段階的に学生が患者診療への貢献を確実に高めていくべきである。
- ・ 臨床実習ですべての学生が健康増進と予防医学の体験ができるよう臨床実習カリキュラムを構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍で対面実習の時間が少なく、2020年度と同様、十分な参加型実習を実施できなかった。状況に応じてではあるが、次年度はできる限り学生参加度を高めた臨床実習を行う予定である。また、本学の第4期中期計画に「CC-EPOCを学生の臨床実習の評価に導入する」ことを記載し、教育評価体制を強化していく計画とした（資料11）。現在の実習評価は、道内3大学の共通評価表を用いて行っているが、将来的にはCC-EPOCのmini-CEXで行うことを予定する。CC-EPOCを用いることにより、将来的に評価は実習現場の指導医だけではなく、看護師等のコメディカルからの評価も可能となり、臨床現場の各スタッフからのフィードバックが得られるようになる。今年度は、5学年の学生が利用できることとし、まず実習で経験した症例を登録させる作業を開始した（資料12）。

旭川医科大学臨床実習に関する協議で、各施設で予防医学の体験が可能であるかどうか調査を行った（資料9）。過半数の施設で何らかの教育が可能であるとの調査結果が得られたが（資料10）、全ての実習学生に関連施設で予防医学教育を受けさせるまでのリソースは準備できなかった。今後はそれを補完する実習現場を学内で確保できないか検討を進め、新カリキュラムでは完全に実施できるよう準備する。また、予防医学を体験させる専門のプログラムを学内で開設できるか検討する。さらに、関連施設での予防医学の体験は早期に開始できるよう要請する。コア科の診療参加型の臨床実習は、2022カリキュラムでは完全実施される事になった。この体制が旧カリキュラムでも構築できないかをシミュレーションし、前倒しの開始が可能かを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料11 第4期中期目標・中期計画 計画1抜粋

資料12 CC-EPOC学生医用マニュアル

資料9 旭川医科大学臨床実習に関する協議

資料10 令和3年度関連教育病院等アンケート回答一覧

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 低学年から継続的に患者と接する機会を十分に持ち、患者診療への参画を徐々に深めていくことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022年度から新カリキュラムで授業を行うことを決定した。新カリキュラムでは1年生に症候学を開講し、学生同士のロールプレイで、医療面接について学習させることになった（資料8）。また社会学実習を3年次に行い、患者へのインタビューの機会を与えることとした。新カリキュラムでは1年生で「症候学」「心理コミュニケーション実習」「早期体験実習I」、3年生で「社会学実習」と段階的に患者診療への参画をすすめる、4年生からのBSL、5年生のCCSにつなげていく体制を整えることができた（資料13）。来年度は「症候学」の授業の実施とその授業評価を踏まえて、さらなる授業改善を図る。また3年次の「社会学実習」の具体的な準備を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料8 2022年度医学科シラバス（症候学）

資料13 医学科2022カリキュラム改正のポイント

2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 基礎医学、社会医学および臨床医学の教育における水平的統合や垂直的統合を行い、カリキュラムの過密化を是正し、学生が理解しやすい学びを構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

新カリキュラムは2022年度開始を目指し、カリキュラム検討ワーキンググループでの検討を重ねてきた（資料2）。カリキュラム原案を策定し、パブリックコメントを募集（資料3）した後、原案を修正、2021年10月25日の教育センター会議で最終案が承認された（資料4）。最終案は教育研究評議会で審議され（資料5）、教授会報告を経て、2022年4月1日開始となった。現行カリキュラムでは特に低学年での過密カリキュラムが問題であったと判断し、重複した内容を含む授業を洗い出した結果、新カリキュラムでは、1～3年の3年間で11単位の削減を行った（資料13）。

また、これまで行ってきた6年毎のカリキュラム改訂時期を見直し、今後は学生からの授業に対するフィードバックを参考に、短いスパンで新カリキュラムの改善を図って

いく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料2 2021年度カリキュラム検討WG議事要旨
- 資料3 医学科2022カリキュラム（案）に対するご意見
- 資料4 令和3年度第5回教育センター会議議事要旨抜粋
- 資料5 令和4年第3回旭川医科大学教育研究評議会議事要旨（議題9）
- 資料13 医学科2022カリキュラム改正のポイント

2.7 プログラム管理

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育方法、学修方法、学生評価およびカリキュラムの立案と実施を行う責任組織（カリキュラム委員会）を明確にし、その組織に学生の代表を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム部門会議（資料14）では、学生からの意見聴取を行い、カリキュラム改善の参考資料の一つにしている。今年度はカリキュラム部門会議への学生の参画を低学年にまで拡大し、議決に関する規定等の整備を行う（資料15）など、学生参画の仕組みを改善した。

また、学生が構成員として参加している教育プログラム評価委員会が今年度も開催され、プログラム評価（新カリキュラム）を受けた（資料16）。

改善状況を示す根拠資料

- 資料14 令和3年度第2回教育センターカリキュラム部門会議議事要旨
- 資料15 旭川医科大学教育センター規程に関する申合せ
- 資料16 令和3年度旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育の広い範囲の関係者をカリキュラム部門会議などの正式な委員とすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム部門会議（資料14）では、学生からの意見聴取を行い、カリキュラム改善の参考資料の一つにしている。またカリキュラム部門会議への学生参加を低学年にも拡大し、議決に関する規定等の整備も行い（資料15）学生参画の仕組みを改善した。学生も参加して教育プログラム評価委員会が今年度も開催され、新カリキュラムのプログラム評価を受けた（資料16）。

改善状況を示す根拠資料

資料14 令和3年度第2回教育センターカリキュラム部門会議議事要旨

資料15 旭川医科大学教育センター規程に関する申合せ

資料16 令和3年度旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 卒前教育から卒後研修に至るコンピテンシーの連続性や、段階的な達成度を示すカリキュラムなど、連携を適切に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

5年生に対してCC-EPOCの使用を開始した。今年度はまず、学生が臨床実習でどのような症例・症候を経験できたのかを調査する目的で、症例登録から開始した（資料12）。また、学内でCC-EPOCの専任教員の選出も行い、学生の症例登録のチェックをする体制を整えた（資料17）。今後は段階的に、臨床実習の評価もCC-EPOCで行えるようにしていく予定で、これにより卒前教育・卒後研修のシームレスな評価と学生自身の振り返りがポートフォリオ上で行えるようになり、連携の強化が期待できる。教育センター・卒後臨床研修センター共催で、研修医の医療面接の能力の向上を図るために、SPを使った医療面接研修を、今年度から本学病院の研修必修プログラムとして実施している（資料18）。

改善状況を示す根拠資料

資料12 CC-EPOC学生医用マニュアル

資料17 CC-EPOC担当教員一覧（2021年度）

資料18 令和3年度医療面接研修会実施概要

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域や社会からの意見を収集し、プログラムに反映させる制度の確立が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会では学外病院の院長、保健所室長、一般市民、本学病院看護部長等が委員となり、新カリキュラムについての評価を受けた（資料16）。今後も継続して評価を受け、指摘された問題について短いスパンで改善を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料16 令和3年度旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨

3. 学生の評価

指摘された項目に対する改善方法について、学内の各部会（教育センターカリキュラム部門会議、FD・授業評価部門会議）で検討を行い、改善を推進するための調査やFD等を行っている。

3.1 評価方法

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2018年9月に学生評価・評定についてのポリシーを作成したことは評価できる。

改善のための助言

- ・ 知識、技能および態度を確実に評価し、それを学年ごとに積み上げ、学生一人ひとりの成長をモニタすべきである。
- ・ 様々な評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ・ 評価方法および結果に利益相反が生じないように体制を整備すべきである。
- ・ 評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。
- ・ 評価結果に対して疑義申し立て制度を確実に用いるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アセスメント・ポリシーについては、絶対評価と相対評価の混在が学内から指摘され、ポリシーに沿った評価が出来ない場合があることが問題となった。さらに今年度、本学は機関別認証評価を受審したが、機構評価員から、アセスメント・ポリシーが目標とする学修成果を確実に評価できていない可能性を指摘された。これを受けてアセスメント・ポリシーの改正を行った（資料19）。さらに教育プログラム評価委員会のメンバーである医学教育専門家より、改正されたアセスメント・ポリシーの評価を受けた（資料20）。

現在、全ての授業でLMSが利用されており、ポートフォリオを利用することにより学生自身や教員がその成長をモニタすることができる様になっている。臨床実習の評価については、卒後研修とのシームレスな評価や、360度評価等を行う予定としており、今年度は5年生に対してCC-EPOCの使用を開始した（資料12）。CC-EPOCの導入により卒後も学生時代に実習で経験した症例を振り返ることができるため、卒前・卒後のシームレスな実習・研修の実施が期待できる。今年度は症例登録から開始し、将来的には評価もMini-CEXでCC-EPOC上で行う予定である。現在、3大学共通のCCS評価表を使用中であるが、今後の評価をCC-EPOCを用いた評価に統一できるか、3大学での検討を進める。

評価の利益相反については、評価が適切に行われるよう体制整備を進めており（資料21）、来年度にはこの申合せを策定のうえ、確実に実施されるよう学内周知を図っていく。

今年度から成績評価に対する異議申立て制度の運用を開始した（資料22）。制度の確実な実施のため、学内で複数回説明会を行った（資料23）。今後は、申立て件数等の調査を行い、制度の充実を図る。

改善状況を示す根拠資料

- 資料19 旭川医科大学医学部アセスメント・ポリシー 令和4年3月16日改正
- 資料20 令和3年度教育プログラム評価委員会配付資料
- 資料21 医学部学生の成績評価・進級判定等にかかる申合せ（案）
- 資料12 CC-EPOC学生医用マニュアル

資料22 旭川医科大学における成績評価に対する異議申立てに関する規程

資料23 成績評価異議申立制度 説明会資料

資料24 （内部資料）令和3年度第2回教育担当教員会議議事要旨【学内限定】

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 新しい評価法として北海道内3大学医学部共通のルーブリック評価表を導入したことは評価できる。

改善のための示唆

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性の検証をさらに進め、明示することが望まれる。
- ・ 学生の評価全般について、外部評価者の活用を進めることが望まれる。
- ・ 臨床実習の評価として、MiniCEXなどの現場での評価の導入を検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍でオンライン授業が多く実施されることとなったが、オンライン授業における評価方法の信頼性と妥当性は検証されていない。オンライン授業の評価については単年度ではなく、複数年度で行い、国家試験やCBTの試験結果とも比較して行っていく必要がある。これらの課題については、IRで国家試験の合格率の推移による検証が可能であり、従来通り調査を行っていく。2022年3月には「北海道FDSD協議会」加盟校で教員・学生を対象とした「オンライン授業に関するアンケート調査」が行われ、本学もこれに参加した。現在内容を解析中である。また卒業時の評価により、オンライン授業の評価方法の改善点を拾い上げていく。本学では研修医に対して教員が個人面談を毎年行っており、研修医本人からオンライン授業の振り返りを聴取することが可能であり、来年度はこの機会を通して調査を進める。臨床実習の評価については、卒後研修とのシームレスな評価や、360度評価等を将来的に行う事として、今年度5年生に対してCC-EPOCの使用を開始した（資料12）。まずは症例登録から開始し、将来的には評価もCC-EPOC上で行う予定である。今年度は機関別認証評価や教育プログラム評価委員の医学教育専門家よりアセスメント・ポリシーの評価を受けた（資料20）。今後も外部評価の結果を受け、学生評価の方法について検討を続けていく。

改善状況を示す根拠資料

資料12 CC-EPOC学生医用マニュアル

資料20 令和3年度旭川医科大学教育プログラム評価委員会配付資料

3.2 評価と学修との関連

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ コンピテンシー達成のための3段階のマイルストーンを策定したことは評価できる。

改善のための助言

- ・ 評価が、目標とする学修成果と教育方法に整合していることを検証すべきである。
- ・ 学生の学修をいっそう促進する評価を実施すべきである。
- ・ 形成的評価と総括的評価との比率を検討すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アセスメント・ポリシーを改正し、シラバスに明示される目標の達成度を確実に評価できるようにした（資料19）。また、全ての授業科目で筆記試験の問題と回答の開示を原則とし（資料23）、学生の自己学修の促進を図った。さらに、これまで開示していなかった臨床実習についても、それぞれのコースごとの成績や、統合演習試験（卒業試験）の各科目別の得点について、来年度から開示する方針とした（資料24）。

今年度も全ての授業科目でLMSが使用され、シラバスに形成的評価と総括的評価との比率がLMSに明示されている。出席確認のため小テストで形成的評価を行い、総括的評価として対面（一部はオンライン）で行う試験を実施した。各授業によって形成的評価と総括的評価の比率は異なるが、小テストの評価比率は30%程度に設定することを推奨している。

改善状況を示す根拠資料

資料19 旭川医科大学医学部アセスメント・ポリシー 令和4年3月16日改正

資料23 成績評価異議申立制度 説明会資料

資料24 （内部資料）令和3年度第2回教育担当教員会議議事要旨【学内限定】

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 学生に対する総括的評価や形成的評価の結果に基づいた時機を得た具体的、建設的、公正なフィードバックを行い、すべての学生の学修を確実にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

成績評価に対する異議申立て制度の運用を開始し、試験問題と正答の開示が行われるようになった。来年度は全ての授業科目で開示の方針が遵守されているか調査を行う。臨床実習においては、これまで各コースでの学生評価は開示されておらず、総括的評価のみが全ての実習終了後に開示されていた。臨床実習部門会議で各コースの評価を来年度から開示することを決定し、学内にこの方針が説明された。統合演習試験（卒業試験）でも各科ごとの成績開示はこれまで行われていなかったが、来年度からは開示する方針とし、担当講座に説明を行った（資料24）。

改善状況を示す根拠資料

資料24 （内部資料）令和3年度第2回教育担当教員会議議事要旨【学内限定】

4. 学生

地域に開かれた入学者選抜を実践するため、医学科推薦入試において、2020年度入学者選抜試験から学外面接員制度を導入している。また、2020年実施の入試から成績疑義申し立ての方法を成績開示資料などに明示している。学生カウンセリングについては保健管理センターで健診情報を電子化するためのシステムを導入するなど、可能なものからスピード感を持って対応するとともに、コロナ禍の学生支援として教育センター教員、学年担当教員、保健管理センター、学生支援課が協力して対応している。また、カウンセラーの雇用など、新たなカウンセリング制度の検討を開始した。

なお、学生の各種委員会と委員会における議論への参加については、教育センターカリキュラム部門会議や教育プログラム評価委員会の規程を改正し、学生が正式に参加できる体制を整えた。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域の状況に合わせて入学方針が決められ、入学選抜が行われていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学者選抜から学部教育、卒後臨床研修に至る教育指導にかかる連携強化を目的として2019年度に設置した「地域共生医育統合センター」（2020年5月 医育統合センターから改称）をはじめ、関係各部門が、地域に開かれた大学であるための取り組みを推進している。その一環として、地域社会の要請に応えた入学者選抜を実施するために、2019年11月実施の2020年度医学科推薦入試において、学外面接員制度を導入した。2021年度入試以降は、コロナ禍のため感染状況を考慮し学外面接員への依頼は見合わせた。今後は行動制限の状況を踏まえて再開する予定である。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2020年実施の入試から成績開示請求における受験者への開示資料の中で疑義申し立ての方法等を追記した（資料25）。

改善状況を示す根拠資料

資料25 令和3年度成績開示様式（参考例）

4.2 学生の受け入れ

基本的水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 保健管理センターが、学生支援に貢献していることを実地調査で確認した。保健管理センターの学生支援活動は評価できる。

改善のための助言

- ・ 学修上の問題に対するカウンセリング制度をさらに充実し、学修困難な学生を早期から支援する体制を整えるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今年度カウンセラーを雇用し、学生に対するカウンセリング制度を確立する計画であったが、大学執行部の刷新が近く行われる予定となったため、新執行部が発足した後に計画を進めることとなった。教育センター教員と統合演習試験（卒業試験）不合格学生との面談を行い、メンタル面での不調が明らかになった学生に対しては、適切な精神科医療を受けるよう指導を行い、2名が専門医療の治療介入を受けた。このうち1名は精神症状の改善に伴い、今年度の同試験に合格した。カウンセリング制度の運用が開始されるまでは、これまで通り教育センター教員、学年担当教員、保健管理センター、学生支援課が協力して学生支援を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 復職・子育て・介護支援センター（二輪草センター）の活動が学部学生へも浸透しつつある。

改善のための示唆

- ・ 学年全般にわたり、学生の教育進度に基づいた学修上のカウンセリングを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

新執行部のもとで来年度は具体的にカウンセリング制度の確立に向けて計画を進めていく。学年担当教員、教育センター教員が、これまで通り成績不良者や問題行動がある学生に対して面談を行い、医学的な問題の存在が疑われる場合には保健管理センターに相談し、必要な医療につなげていくという基本体制はこれまで通り継続する。

改善状況を示す根拠資料

なし

4.4 学生の参加

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学生の代表が各種委員会に参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育センターカリキュラム部門会議に学生が参加できることを規定（資料15）し、実際に議論に加わっている（資料14）。

また、教育プログラム評価規程を改正し、これまで「委員会が必要と認めた者」として参加していた学生が委員として参加できるよう規程を整備した（資料26）。

改善状況を示す根拠資料

資料15 旭川医科大学教育センター規程に関する申合せ

資料14 令和3年度第2回教育センターカリキュラム部門会議議事要旨

資料26 医学部医学科教育プログラム評価規程の一部を改正する規程

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

5. 教員

教員間、教員と一般職員のバランスについての指摘を受け、今後は教育センター会議でもこの点についての議論を進め、上位会議へ積極的に提案していく。また、教員の選考方針についてもより明確な基準を策定する。特に、教員は背景に自身の優れた研究領域を持つことが重要であり、この点に注目した教員採用の基準作りを行う予定である。さらに教育センターを中心に、教員の教育に対する意識の向上の能力開発をはかるためのFD、説明会、講演会をより積極的に実施していく。大学としては、評価しづらい教育への貢献度を客観的に評価する指標を策定する。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムを適切に実施するために、新規教員の募集と選抜方針を策定すべきである。その方針には、医学と医学以外の教員間のバランス、常勤および非常勤の教員間のバランス、教員と一般職員間のバランス、基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員のタイプ、責任、バランスを含むべきである。また、教育、研究、診療の役割のバランス、業績の判定水準を明示すべきである。さらに、教員の責任を明示し、その活動をモニタしていることを記載すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の授業科目において、担当教員が果たすべき教育内容は、シラバスに明示している。なお、教育理念を具現化するための効果的なカリキュラム編成により、医療社会学の教員を配置し、1年次一般教育のカリキュラムに関しては、充実している。

2022年度からの新執行部体制の下で、教員の選考方針について、より明確な基準を策定する。特に、教員は背景に自身の優れた研究領域を持つことが重要であり、この点に注目した教員採用の基準作りを行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ カリキュラムを適切に実施するために、新規教員の募集と選抜方針を策定し、そのポリシーには、その地域に固有の重大な問題を含め、医学部の使命との関連性を示すことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

選考方針は、人物評価、教育、研究、診療、社会貢献実績等を総合的に評価し勘案し

ている。新執行部体制においても、募集と選抜方針は今後の重要な課題であることを認識しており、教員の適正な配置など検討することとしている。

改善状況を示す根拠資料

なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 各講座・医局に訪問して行うFDを実施していたことを実地調査で確認した。この活動は多くの教員に教育プログラムを周知させる活動として評価できる。
- ・ FDを頻回に開催し、教員の活動と能力開発の機会を提供している。

改善のための助言

- ・ 個々の教員がカリキュラムの全体を十分に理解し、カリキュラムの中で自身の教育活動の位置づけに関して理解できるように、FDを継続して実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍であった今年度も、オンラインを中心として複数回FDを開催した（資料27）。新カリキュラム策定に際しては、学内での説明会を複数回行い、学内関係者のカリキュラムに対する理解を促進させた（資料28）。今後もこれまで通り教育関連FDを継続する予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料27 令和3年度FD実施状況

資料28 （内部資料）令和3年度第1回教育担当教員会議議事要旨【学内限定】

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

6. 教育資源

特記すべき良い点として評価を受けた「旭川医科大学キャンパスマスタープラン2016」に加えて、2019年度に策定したインフラ長寿命化計画(個別施設計画)に基づいた施設・設備の継続的な改善を行った。新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、分散登校や在宅でのオンライン授業の聴講が安定的に実施できるようWi-Fiアクセスポイント増設、ノートパソコンの貸し出し、在宅でのオンライン環境が不十分な学生などに対するオンライン授業聴講用教室の提供など受講の支援や通信環境の整備を行った。

「旭川医科大学情報セキュリティポリシー」に沿った情報通信技術の倫理的活用については、点検、訓練などを定期的に行うとともにセキュリティ担当者が学外研修・演習に参加するなど、多角的に情報セキュリティの向上を図っている。

また、改善点として指摘を受けた、学外臨床実習病院・施設が学修成果獲得のための教育資源として適切かどうかについて、プライマリ・ケアの経験の可否、地域住民・患者の医療ニーズへの対応などの視点も含め、各施設の患者数と疾患分類の調査を2021年度に開始した。

6.1 施設・設備

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「旭川医科大学キャンパスマスタープラン2016」が策定され、それに基づいて施設・設備が継続的に改善されている。

改善のための助言

- ・ 災害対策について、学生と教職員が協働するための訓練を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

キャンパスマスタープラン2016の整備行動計画及び2019年度に策定したインフラ長寿命化計画(個別施設計画)に基づき現状を調査した上で、必要に応じて見直し、今後も計画的な施設整備を行っていく。

加えて、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、職員・患者・学生の生命を最大限守りつつ、学生教育を行う方法について検討を行い実施してきた。分散登校や在宅でのオンライン授業の聴講が安定的に実施できるようWi-Fiアクセスポイント増設、ノートパソコンの貸し出し、在宅でのオンライン環境が不十分な学生などに対するオンライン授業聴講用教室の提供など受講の支援や通信環境の整備を行った。

災害訓練については、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため実施できなかったが、地震や火災だけではなく多様化する災害に留意した訓練が行えるよう引き続き検討する。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

6.2 臨床トレーニングの資源

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学外臨床実習病院・施設の患者数と疾患分類を把握し、学修成果獲得のための教育資源として適切かどうかを検討すべきである。
- ・ プライマリ・ケアを経験できる臨床実習病院・施設を確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学外実習施設での患者数と疾患分類調査を行った（資料10）。施設ごとに診療対象疾患が異なっており、これは地域住民ニーズを反映した結果と考えられる。特に地域医療実習の受け入れ施設では、プライマリ・ケア症例については学生が充分経験できることが調査の結果分かった。学生が実習で経験した症例に関しては、今年度大学病院においてCC-EPOCの症例登録を開始することとした（資料12）。来年度はこの調査の集計と、新しい対象学年の調査を開始し、大学病院での経験症例の把握を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料10 令和3年度関連教育病院等アンケート回答一覧

資料12 CC-EPOC学生医用マニュアル

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 臨床実習病院・施設について、地域住民・患者の医療ニーズに対応しているかどうかの視点で評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6.2の基本的水準と同様の状況

改善状況を示す根拠資料

同上

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 情報通信技術を倫理面に配慮して、適切に活用するための「旭川医科大学情報セキュリティポリシー」を策定し、定期的に点検・評価を実施している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「旭川医科大学情報セキュリティポリシー」については、定期的に見直しを図っている。また、2019年9月に策定した「サイバーセキュリティ対策等基本計画」に則り、本学の情報セキュリティ対策を実施している。2021年度においては以下の対策を実施し

た。

- ・ 2022年3月 文部科学省による脆弱性診断(ペネトレーションテスト)の指摘事項について修正し、報告を行った
- ・ 2022年3月 情報セキュリティ講演会をオンライン開催
- ・ セキュリティ・IT人材の育成として担当者が学外研修・演習に参加

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生が電子カルテに記載し、適正に指導医の監督を受けていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ 臨床実習において、医療チームが学生に連絡を取れる体制を作ることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今年度の臨床実習は、新型コロナウイルス感染症のため対面実習とオンライン実習の併用となった。オンライン実習はLMSを主体に使用して行ったため、学生連絡も全てLMSを介して行いスムーズに実施できた。対面実習での連絡については、科目ごとに異なった方法（LMS、学内PHS、学生個人のスマホ等）で行われ、実習に支障を来すことはなかったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化により全面的に対面実習が再開された場合に、現在の連絡体制で問題がないかどうか、継続して検討する。

改善状況を示す根拠資料

なし

6.4 医学研究と学識

基本的水準： 適合 ・ ・ ・ 指摘事項等無し

質的向上のための水準： 適合 ・ ・ ・ 指摘事項等無し

6.5 教育専門家

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育センターに専任教員が配置され、カリキュラム開発や教育技法、および評価方法の開発を支援している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今年度はZoom主体のオンライン授業を基本とし、新型コロナウイルス感染症の感染状況の落ち着いた時期には、半数登校による対面授業の併用で授業を行った。LMSは全ての授業で使用され、授業方法に関しては、教育センターが教員の疑問に答える窓口になっている。OSCEも教育センター主導で実施方法を企画し、昨年同様医療面接はZoomを使用して行い、特に問題なく実施できた。TBLについては、昨年度LMSのスレッドでグループワークを行ったが、学生のアンケート結果も参考に、今回はZoomのブレイクアウトルームを使ってグループ討論を行った。コロナ禍の教育技法については、今後も教育センターから可能な限り提案していく。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

6.6 教育の交流

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学生の国際交流に関する窓口を整え、国外留学のサポート体制を整備すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍のため、学生の国際交流については実施できていない。担当教員の明確化や専任の事務職員を配置するなど体制整備を引き続き図っていくこととする。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教職員と学生の国内外の交流を促進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍のため、学生の国際交流については実施できていないが、教育および研究活動に係る利益を促進することを目的に、リオグランデドスール連邦大学（ブラジル）と2021年5月28日付けで新規協定を締結した。（資料29）

改善状況を示す根拠資料

資料29 リオグランデドスール連邦大学協定書

7. プログラム評価

指摘された項目に対する改善方法について、学内の各部会（IR教育部門会議、教育センターカリキュラム部門会議、カリキュラム検討ワーキング、教育プログラム評価委員会、教育関連病院担当者会議等）で検討を行い、改善を推進するための調査、準備が行われた。具体的には、新カリキュラム策定が行われ、2022年度からの開始に向けて教育プログラム評価委員会で評価を受けた。また、教育関連病院担当者会議では自己点検評価の課題について説明を行い、今後の改善策について報告した。IR部門では卒業生調査とその分析、入試資格に関する解析を行った。

7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを実働すべきである。
- ・ カリキュラムとその構成要素、学生の進歩、課題の特定の観点からプログラムを評価すべきである。
- ・ 評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今年度は、2022年開始の新カリキュラム策定に関して、JACMEで指摘された過密カリキュラムの是正、低学年から段階的に患者に接する機会を与えること、多職種協働プログラムの策定等の課題改善をベースに、学内の意見聴取（教育担当教員会議）（資料28）のうえ、カリキュラム検討ワーキングを複数回開催し（資料2）準備を進めてきた。さらにパブリックコメントの募集を行い（資料3）、ブラッシュアップを行い、原案を修正した後、2021年10月25日の教育センター会議で最終案が認められた（資料4）。新カリキュラムは、2022年度1学年から開始されるが、1学年で新しく開講される初年次セミナーは、学生のレポート作成能力が不十分であるという学内での意見をもとに導入され、この能力を取得させることを目標としている。また同じく1学年で新規に開講される「症候学」は、基礎医学を学ぶ意味が理解しづらく、学修モチベーションが低下しているという課題が指摘されたことから導入されたものであり、低学年で臨床医学を学ぶことにより、そこで必要な基礎医学の知識について理解させることが大きな目的になっている（資料8）。教育プログラム評価委員会を開催し、新カリキュラムの評価を受けた（資料16）。来年度は新カリキュラム実働に伴う問題点の有無について、学生、教員さらには教育プログラム評価委員会等からフィードバックを受け、さらなる改善に繋げる。

改善状況を示す根拠資料

- 資料28 （内部資料）令和3年度第1回教育担当教員会議議事要旨【学内限定】
- 資料2 2021年度カリキュラム検討WG議事要旨
- 資料3 医学科2022カリキュラム（案）に対するご意見
- 資料4 令和3年度第5回教育センター会議 議事要旨抜粋
- 資料8 2022年度医学科シラバス（症候学）
- 資料16 令和3年度旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果、社会的責任など、プログラムを定期的かつ包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

今年度も学外病院の院長、保健所室長、一般市民、本学病院看護部長、学生等が委員となっている教育プログラム評価委員会を開催し、新しいカリキュラムの評価を受けた（資料16）。新カリキュラムに関しては、来年度からの運用開始後に問題点がないかどうか教育プログラム評価委員会やカリキュラム部門会議等で定期的に評価していく。

改善状況を示す根拠資料

資料16 令和3年度旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 卒業時に学生や保護者を対象にアンケート調査を行い、教員にフィードバックしている。

改善のための助言

- ・ 教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

例年通り各授業全てで、学生からの授業評価を受け（資料30）、評価結果を授業コーディネーターにフィードバックした。コーディネーターは評価に対するコメントを学生・保護者に対して開示している。

カリキュラム検討ワーキングは、新カリキュラム策定について、学内の意見を聴取（教育担当教員会議）（資料28）した上で、会議を複数回開催し準備を進めた（資料2）。また、パブリックコメントを募集し（資料3）、これらの意見を基にブラッシュアップを行った。

改善状況を示す根拠資料

資料30 令和3年度企画に対する授業評価結果【学内限定】

資料28 （内部資料）令和3年度第1回教育担当教員会議議事要旨【学内限定】

資料2 カリキュラム検討WG議事要旨

資料3 医学科2022カリキュラム（案）に対するご意見

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ フィードバックの結果を利用して、教育プログラムを改善することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生、教員からのフィードバックを基に、新カリキュラム策定を行った。今後は新カリキュラム実施後の問題点についてのフィードバックを受けて、さらに改善を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

なし

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 卒業生の道内定着率や研究業績調査を実施していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善のための助言を受けて、学生と卒業生の実績について分析を行う体制を整え、その結果を継続的にフィードバックしている。本学が教育の理念に示している「地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者の育成」という使命が果たされているかどうか、「卒後の活動に関する調査」（以下、卒業生調査）を2019年度から実施し、継続してきた。これまで調査結果は詳細な学内限定版とWebページで公開する概要版（資料31）の2種類を発行してきた。学外の卒業生への周知は概要版で行っている。当初はIR室が主体となって卒業生調査ワーキンググループ（以下、卒業生調査WG）を招集し、卒業生調査研究グループを結成して、観察研究として継続実施できる体制とし、第1回の調査・分析を行った。この調査および結果の概要については、2021年度に開催された第53回日本医学教育学会で報告し、卒業生から得られたフィードバックをいくつか紹介した。また、調査結果にあった「過密カリキュラムによる弊害」は、これまで収集してきた卒業時アンケート結果と合わせてカリキュラム検討ワーキングにも報告され、2022年度から適応される新カリキュラムにおいて、授業コマ数を削減する根拠の一つとなった（資料32）。

卒業生の進路フォローアップも担当する医育統合センター（現：地域共生医育統合センター）が2019年4月に発足した。これを受けて卒業生調査WGが調査の計画を立案後、地域共生医育統合センターが調査実施を担当し、IR室が解析を行う体制が整った。この体制で実施した第2回卒業生調査結果の一部を用いて、卒業生調査WGメンバーと本学社会医学講座で、卒業生の地方勤務の意識について解析を行った。その結果は北海道公衆衛生学雑誌に「出身地、入試形態、奨学金と地方勤務の意思との関連：旭川医科大学卒業生質問紙調査」として報告した（資料33）。2021年度は第3回目の卒業生調査を2021年12月から2022年1月にWebアンケート方式で行った。このように卒業生調査を利用して、学生と卒業生の実績について継続的に分析を行い、解析結果の一部を教育の質改善に役立てている。

また、北海道内で初期臨床研修を行う卒業生と、入試改革・カリキュラム改革を連動させた高大病連携事業の関連についても解析を行い、継続して事業の評価を実施している。JACMEのサイトビジット直後に行われた第51回日本医学教育学会において、北海道出

身者に対する入試枠拡大（地域枠40%以上）と重層的地域医療教育を行うカリキュラム改革によって、北海道内で研修を行う卒業生が80%を超えるようになったことを報告した。ただし、高大病連携事業は、新型コロナウイルス感染拡大および教員資源減少のため、一時的に規模を縮小せざるを得なかった。このため入試枠（道北・道東推薦枠）に合わせて、原則として本学教員が直接活動を実施する地域を道北・道東に限定して継続した。2021年度はZoomを用いたグループワーク授業法を一部高校との間で確立することができたため、以前から事業を実施していた地域に対しても事業を再開することができた（資料34）。2022年9月から、さらに一つの高校で事業を再開する予定である。このように入試改革やカリキュラム改革による学生と卒業生の実績について継続的に解析を続けており、実績に基づいた評価を行い、教育資源を提供する仕組みを運用している。

改善状況を示す根拠資料

- 資料31 第2回卒後の活動に関する調査結果概要版
- 資料32 2015カリキュラム2202カリキュラム対比表
- 資料33 北海道公衆衛生学雑誌Vol135表紙
- 資料34 令和3年度高大病連携活動内容

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 背景と状況、入学時成績に関して、学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。
- ・ 学生の実績の分析を使用し、学生の選抜、カリキュラム立案、学生カウンセリングについて、責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学資格に関する解析も学生の成績から分析され、入試にも役立てられている。IR室から2019年11月に「入試区分と学生成績の関連分析」（資料35）が報告された。この解析結果は入学センターで検討され、長年行われてきた集団面接を中止することとなった。また、共通テスト（一次試験）の学力点傾斜配分が見直され、個別学力試験（二次試験）では理科を中止した。このように入学資格についても、学生の実績を分析し、責任を持つ委員会へのフィードバックを行った。

改善状況を示す根拠資料

- 資料35 入試区分と学生成績の関連分析【学内限定】

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ プログラムのモニターと評価に学生など、主な教育の関係者を含めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会では学外病院の院長、保健所室長、一般市民、本学病院看護部長等が委員となり、教育プログラム評価を行った（資料16）。

また、教育プログラム評価規程を改正し、これまで「委員会が必要と認めた者」として参加していた学生が正規の委員として参画できるよう規程を整備した（資料26）。

改善状況を示す根拠資料

資料16 令和3年度旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨

資料26 医学部医学科教育プログラム評価規程の一部を改正する規程

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 他の関連する教育の関係者に、課程およびプログラムの評価の結果を開示し、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

旭川医科大学臨床実習に関する協議を開催し自己点検評価について説明した（資料9）。

教育プログラム評価委員会を開催し、新カリキュラムを説明し、評価を受けた（資料16）。またこの委員会で、JACMEの審査で指摘された課題についても説明を行い、今後の改善策について報告した。

改善状況を示す根拠資料

資料9 旭川医科大学臨床実習に関する協議

資料16 令和3年度旭川医科大学教育プログラム評価委員会議事要旨

8. 統轄および管理運営

学長、教育担当副学長、教育センター長などの教学のリーダーシップの責務を明確にすべきであり、医学教育の外部評価を受けて、分野別評価専門部会において内部質保証を担保し、それを学長直属の大学運営会議、教育研究評議会と教授会で意見交換しその意見を教育担当副学長へ伝え、教育担当副学長直属の教務・厚生委員会とカリキュラム委員会で審議する。カリキュラム委員会は医学科長および看護学科長と意見を共有し、教育実践の組織である教育センターに意見を伝える。また教育センターから教育担当副学長そして学長へ審議報告するフローを確立し、教育やカリキュラムの改善に向けてより速やかに対応できるようにしていく体制を構築しつつある。

8.1 統轄

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 統轄する組織として、教育センターとその下部組織である部門や、教務・厚生委員会などの組織の大学内での位置づけを明確にし、それぞれの規程を作成し、役割と権限を明確化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

指摘を受けた事項を踏まえ、学科内における教育研究に関する責任者（会議）、指揮命令系統を明確にするため学科長を置き、規定を整備した（資料36、37）。

改善状況を示す根拠資料

- 資料36 教育研究上の基本組織一覧
- 資料37 旭川医科大学学科長に関する規程

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 学生や患者などの教育の関係者を構成員とする組織を整備し、主な教育の関係者やその他の教育の関係者の意見を反映することが望まれる。
- ・ 統轄業務とその決定事項の透明性を確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会等、学外委員を含む委員会等を定期的で開催している（資料16）。また、学科内における教育研究に関する責任者（会議）、指揮命令系統を明確にするため学科長を置き、規定を整備した（資料36、37）。

改善状況を示す根拠資料

- 資料16 令和3年度教育プログラム評価委員会議事要旨
- 資料36 教育研究上の基本組織一覧

資料37 旭川医科大学学科長に関する規程

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学長、副学長、教育センター長、教授会メンバーなどの教学のリーダーシップの責務を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

8.1の基本的水準の改善状況等と同様

改善状況を示す根拠資料

同上

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 学長、副学長、教授会、教育センター長およびその部門、教学関係の委員会などにおける教学のリーダーシップの評価を使命と学修成果に照合して、定期的に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

8.1の基本的水準の改善状況等と同様

改善状況を示す根拠資料

同上

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムを確実に遂行するために教育予算を組み、その執行を組織として管理すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

予算は、当該年度に係る予算編成方針に基づき、財務委員会の議を経て、経営協議会、役員会において審議・決定の後、執行される。

教育予算は、教務経費、学外実習経費、非常勤講師、共用試験、教育環境等整備費、学生指導等の経費に分かれており、事務局学生支援課において執行管理している。

また、教育研究経費（設備整備経費）は、講座等が必要とする教育関係の設備・備品購入の財源であり、講座等からの要望について、教務・厚生委員会委員長である教育担当副学長が、緊急性や整備計画等を踏まえて調整する。当該年度の購入は、教務・厚生委員会に報告している。また、2022年1月から財務委員会の構成員に学科長を加えるよう規程改正を行った。（資料38）

改善状況を示す根拠資料

資料38 旭川医科大学財務委員会規程の一部を改正する規程

質的向上のための水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

8.4 事務と運営

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育プログラムと関連する活動を支援するため、必要な事務組織および専門組織を設置し、適切な人材を配置し、運営のための資源を適切に配分していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育を担当する部長級職員が同時に教育に関する人事や予算を掌理できるようにするため事務局組織を改組した。各課においては部制を廃止したことから部の垣根を超える円滑な調整ができた（資料39）。

改善状況を示す根拠資料

資料39 事務局組織の改組

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 管理運営を「中期目標・中期計画・年度計画」の点検・評価により、定期的に実施している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

管理運営は「中期目標・中期計画・年度計画」の点検・評価により、引き続き行っている。

改善状況を示す根拠資料

なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準： 適合 . . . 指摘事項等無し

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 旭川エリアの住民の身体的、精神的および社会的な健康の達成、ならびに教育・地域貢献を図ることを目的として「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」を設立し、行政と連携した活動を行っていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ 学生が地域の保健医療関連部門の活動に参加できる機会を作ることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

旭川ウェルビーイング・コンソーシアムにおける事業の一環として、地域社会に対して研究成果・学習成果を発表する「合同成果発表会（ポスター展示）」に本学学生が参加した。（資料40）

旭川医科大学臨床実習に関する協議を開催して、関連施設でどのような保健・検診活動が可能であるかについて調査を行った（資料9、10）。大部分の関連施設でこれらの活動が行われており、既に学生参加も行われていることが明らかとなったが、実際に全ての学生が臨床実習中にこの活動に参加することが物理的に可能であるか、検討を続ける。

改善状況を示す根拠資料

資料40 2021年度合同成果発表会抄録集

資料9 旭川医科大学臨床実習に関する協議

資料10 令和3年度関連教育病院等アンケート回答一覧

9. 継続的改良

教育プログラム評価委員会を今後も定期的開催し、新カリキュラムに対しても短いスパンで改善を図っていく。異議申立て制度の運用を開始したが、今後は制度についての検証・改善を行いつつ、運用を推進していく。プログラム策定、プログラム管理、プログラム評価を確実にを行うための委員会組織の再編整備については、来年度に実質的な作業に入る予定である。

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育プログラムのPDCAサイクルを適切にまわすために、プログラム策定、プログラム管理、プログラム評価を確実にを行うための委員会組織を設置し、実働させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会を開催し、新カリキュラムに関して各委員から意見を聴取した（資料16）。アセスメント・ポリシーについては学内外から問題点が指摘され、改正を行った（資料19）。改正されたアセスメント・ポリシーは、学外の専門家からの評価を受けた（資料20）。今年度から成績評価に対する異議申立て制度の運用を開始しているが、成績開示については100%の実施には至っていないことが明らかとなり、学内で説明会を開催し（資料23）コンセンサスを得て、来年度から完全実施する予定である。PDCAサイクルを回すための各組織の見直しについては、新体制の下進めることとした。

改善状況を示す根拠資料

資料15 令和3年度教育プログラム評価委員会議事要旨

資料19 旭川医科大学医学部アセスメント・ポリシー 令和4年3月16日改正

資料20 令和3年度教育プログラム評価委員会配付資料

資料23 成績評価異議申立制度 説明会資料

質的向上のための水準： 評価を実施せず